佐渡市議会 市民厚生常任委員会 視察報告書 ２０２４０７１６

室岡啓史（０９０－９３３５-９５１９）

①福島県郡山市
［テーマ］
子育て支援施設「ペップキッズこおりやま」について
https://pep-kids-koriyama.com/
↓
市制施行１００周年となり、ウエルビーイング都市郡山を目指している。東日本大震災、福島原発事故により子どもたちの健康増進、健やかな発達を願い、平成２３年３月に子どもの心のケアプロジェクトにより屋内遊び場の創設が実現した。ここは、室内で子どもたちが安全に過ごすことのできる場所である。１日約７５０名が利用、累計で３００万人以上が利用しており、１／４は市外からの来訪である。ペップアクティブ（無料）とペップキッチン（３００円）とが利用可能である。理事長は、２０１３年１月３日頃に、保健支援フォーラムにおいて佐渡での講演をしてくれたとのこと。スーパーマーケットを転用した屋内遊技場ということで、佐渡市においても遊休施設の利活用可能性を感じた。

【質疑応答】
どんな思いで作られたのか？
↓
子どもの心ケアプロジェクト、身体的苦痛、精神的苦痛、トラウマ、放射線の恐怖、風評被害による差別などどうしたら子どもたちの居場所をつくれるのか？ＰＴＳＤなどから子どもを守る。居場所づくりとして設置した。

事業スキームは？
↓
心のケアプロジェクトの中で、ヨークベニマル社が土地・建物を提供してくれたことで、スピーディーにできた。最初は行政の直営、以後ＮＰＯへ委託している。ヨークベニマル社の負担は把握していない。１．８億円の寄付をいただいた。年間の人件費は約３，０００万円で、ランニングコストは維持管理に係る委託などで年間１．２億円ほど。役割分担としては、行政：施設の管理運営、使用許可。ＮＰＯ：市からの業務委託で運営。ヨークベニマル：土地建物の無償貸し付け、遊具等の寄付。

震災直後のプロジェクトをどう実現したか？
↓
平成２３年３月から子どもの心ケアプロジェクトを推進している。夏にキッズフェスタで遊び場を提供したことがきっかけとなり、ヨークベニマル社から協力の依頼があり、菊池氏を中心に設立委員会がたちが上がった。子どもたちの運動神経に必要な３６の動きを体験できるようになっている。

子育て世代の状況変化は？
↓
放射線等の不安はある。全天候型の施設を求める声が多い。放射線については終息に向かったが、夏の暑さなども加味すると室内型。財源が切れる後の財源確保が必要。３０年近くの建物の老朽化に伴う資金面の確保は課題。人口減少は他市町村に比べればましかもしれない。市外から来訪の１／４の方が移住定住にはつながっていない感じ。交通の便が良いから。無償で借りている施設なので、市内外の区別は考えていない。

事故やケガはないか？
↓
基本は親が子どもを管理、自己責任。何かあれば救急車や医師のご紹介。

プレイリーダーの育成方法については？
↓
子どもたちのアンケートにより、体・心のケア事業もおこなっている。１８ページ：プレイリーダーとは。
時間・空間・仲間の３つの間を大切に。１３ページ：１０年間で１０回ずつ、１００回のペップアップ講習会を開催し、３，０００人以上に集まっていただき、幼保小低学年の先生らに遊びを学んでもらった。人の動きは３６種類に分類されると言われている。体力テストの調査事業を行っている。

遊びの企画立案方法は？
↓
スタッフのレベルを上げていった。エアトラック、エアキャッスル、ボールプール、ベビーコーナー
今までに大小５回のリニューアルをおこなっている。遊具は１０年ももたない。平均して５年くらい。年間８，５００万円ほどの運営費。事務局は７名、キッチンは３テーブル。３人の先生と１人の補助者で合計８人で運営。アクティブについては、１７名で運営。正職員は１／３、パートは１／３。年間５，０００～５，７００万円などの人件費で、月２０万円以下。

佐渡市議会 市民厚生常任委員会 視察報告書 ２０２４０７１７
室岡啓史（０９０－９３３５-９５１９）

②秋田県仙北市
［テーマ］
医療ＭａａＳ車両「医信電診丸」について
https://semboku-hdx.com/maas/
↓
市川晋一先生による医療ＭａａＳについてのお話を伺った。今の時点で日本の最先端であり、一番お金がかかっている。看護師は２名必要、介護者は１名、患者は１名で、事業自体は赤字である。モネットという会社が貸し出して実証実験をしている。医療ＭａａＳはトヨタなどが参画しており、１０００億円規模の市場になるのではないか。トヨタは７台つくっっており、１０数か所で展開中である。訪問診療以上診療所未満という位置づけ、モバイルクリニックのイメージ。市職員の応募案が採用され、以心伝心を文字り、「医心電診丸」という名称にした。寝たきりの方は訪問診療の方が良い。初診はオンラインが対応不可。３回に１回は顔を合わさないとダメ。厚労省はオンライン化を推進して医療費を削減しようとしているが、民間では難しい事業である。現在は６名の患者さんのみ、毎週水曜日午後に予定している。医師の診療圏は、１６ｋｍと決まっており、縄張りがあるため、地域外の診療は道義的に許されない。市川先生のアツい思いが伝わってくる説明であった。佐渡市においても、オンライン診療と併用しながら、医療ＭａａＳ車両の導入も検討し、遠隔地での医療行為や薬剤提供もできるように改善していく必要性を感じた。

【質疑応答】
コストは？
↓
年間維持費６０万円。診療報酬で２０万円。残りは赤字。人数はそんなに増やせない、故に赤字である。事業費約４，０００万円。１／２補助２，０００万円。交付税９００万円。

稼働率は？毎週水曜日以外はどうなっている？
↓
今後、他の地区での利用を考えている。伊那市は医師会に貸し出して、妊産婦さん等を診療している。市立角館総合病院、もう一か所。一般会計から繰り出している。仙北市は広いのでそれぞれの地区に病院は必要であるため、コンサルを入れて運営している。秋田大学医学部と西明寺診療所と連携してのオンライン化も推進していく。６名の患者⇒アンケートによれば安心感があり高評価を得ている。点滴などもできるがきりがない。点滴５００ｃｃで２時間かかってしまう。医療ＭａａＳ車両は、ドクターカーではない。

「医心電診丸」を佐渡で実現しようとしたら？
↓
▼イニシャルコスト
３，６００万円。秋田大学は５，０００万円。どこまで車両に対して、機能を求めるか？ハイエースにもいろいろあるが、改造費７～８００万円。車両は１３００万円くらい。ソニーのカメラ５０万円：２０倍の光学ズーム。診療所にもないとダメ。医心電診丸は、お腹のみ見られるエコーにとどめている。目的にあったものが必要で、どういう患者のニーズがあるか見極める必要がある。
▼ランニングコスト
人件費は算出するのが難しい。クラウドの利用料は、車と診療場所月２万円×２。衛星通新月１万円、モバイルルーター５０００円。電子カルテを導入すると月４～５万円もしくは月７～８万円。

医療ＭａａＳの医師確保、ゼネラリストをどう育てていくのか？
↓
医療分野はどんどん細分化している。内科も幅広いので、１名の医師では無理。角館病院では、総合診療科があり、大曲などの大きい病院につないでいる。医師派遣のための寄付講座を行い、大学病院と連携している。自治医大の先生は総合診療医である。オンライン診療の診療点数等については整備中。プロポーザルでアルファシステム社が選定された。